



## ニセコ町

### 地域の森林活用による まちづくり

豊かな森林に恵まれながら、林業・木材加工業者が少なく、木材などの循環的な利用に至っていないニセコ町。その課題を踏まえた「ニセコ町森林ビジョン」を策定し、町民や関係者に森林づくりの基本理念と方向性を示している。「ニセコ共生循環の森林づくり」というテーマが描く、20年後、50年後の森林の理想像とは。

#### ニセコ町らしい 森林の活用を

町の総面積の67%を占める森林はニセコ町の大切な地域資源だが、それが十分に活用されていないことが以前からの課題だった。これまで体系的・計画的な森林整備や素材生産が行われてこなかったため、素材加工や製品加工を行う事業者が町内に無く、加工の過程で町外の事業者へ搬出する必要

があり、他産地の木材と混合して取り扱われる。そのため、建築や家具でニセコ町産木材へのニーズがあっても対応できない状況にある。そんなニセコ町の課題を踏まえて策定されたのが「ニセコ町森林ビジョン」だ。ニセコ町農政課の山田さんは、「なるべく町内で木材の地材・地消ができるような仕組みを作って、将来に継承することが最終的な目標です」と語る。森林の有効活用の実現に向けては、町内のあらゆる人たちがそれぞれの立場から連携・協力することが不可欠だ。「町民など多様な人たちの森林への理

解が深まるように議論をしていきたいと思っています」というのが展望だ。



「NISEKO WOOD PARK」の看板

町民に感じてもらいたい 森林活用の理想のカタチ



「NISEKO WOOD PARK」での木や森に馴染みのあるミュージシャンの演奏会

#### わかりやすいテーマで 森林づくりを自分ごとに

ニセコ町森林ビジョンの策定にあたって、支援業務を受託したのが株式会社トビムシ。全国各地で森林価値を高める多角的な事業を展開している会社である。森林ビジョンの中で、ニセコ町の目指す森林の将来像を「ニセコ共生循環の森林づくり」というテーマで表現した理由について、トビムシの加藤さんは「細かい内容までは知らなくても、この言葉が町民に共有されることで、ニセコの森林づくりを自分ごととして考えてもらうきっかけになるよう考えました」と語る。計画では20年後と50年後の将来像を描いているが、「30年前、私たちが想像していなかったスマートフォンやインターネットが今では生活基盤の一部となっているように、森林に関わることも日常となっている、そんな未来をイメージしています」と加藤さん。



ニセコ町役場は2021年に新庁舎を新設。床・壁・天井には町の木であるシラカバがふんだんに使われています。

#### 楽しいイベントを通して ニセコの森に思いを巡らす

2022年10月、ニセコ駅前のニセコ中央倉庫群広場で開催された「NISEKO WOOD PARK」。地域おこし協力隊の林業サポートメンバーなどが中心となって企画したイベントだ。実行



フクロウのチェーンソーアート

委員長の鈴木さんは、「自分たちの取組を知ってもらえる機会であると同時に、僕を含めて個性豊かなメンバーがそれぞれやりたいことを楽しむ場にもなりました」と笑う。会場には、薪割り体験や箸作り体験をはじめ、チェーンソーアートの実演や森の音楽会など、幅広い世代が楽しめるプログラムを揃えた。コロナ禍で町内のイベントが軒並み中止になっていたこともあり、当日は想定を超える来場者で賑わった。木のスケートボードパークでは集まった子どもたちが夢中になって遊び、終了時間になっても帰りたがらないほどだった。「今回は駅前広場での開催でしたが、いずれは自分たちが整備した森林空間を会場にできたらと考えています。さまざまな世代の人たちが地域の森に入って楽しみ、たくさんの恵みを感じられるイベントなども

できたら良いなと思っています」。同じニセコ町内で森や自然に関わっていても、なかなか会うことのない人々もいる。そんな町民同士がお互いの活動を知り、地域の森への思いを巡らす機会としてもこのイベントが継続して欲しい、それが鈴木さんたちの願いだ。



写真左よりニセコ町農政課 参事の山田浩二さん、ニセコ町企画環境課 林業サポートの鈴木健さん、株式会社トビムシの加藤正統さん



町内の森林資源の循環的な活用を目指し、「ニセコ町らしい森林づくり」のあり方など、森林づくりの基本理念と方向性を示す「ニセコ町森林ビジョン」を策定。



「ニセコ共生循環の森林づくり」というテーマやニセコ町の取組を広く町民に伝え、森について考えるきっかけとなるイベントを開催。



イベントの継続開催等を通して町民と地域の森への思いを共有し、20年後と50年後の将来像を掲げた「ニセコ共生循環の森林づくり」に向けた取組を予定。